



Society5.0 時代に向けた教育と福祉

学校法人鶏鳴学園
青翔開智中学校・高等学校
校長 織田澤博樹

『Society5.0』という社会がやってくるようです。『Society1.0』は人類が生きるために動物を狩り、植物を採集していた狩猟社会。農業が開発され人類は『Society2.0』の農耕社会に移行していきます。イギリスで蒸気機関が発明され世界はあっという間に工業化。

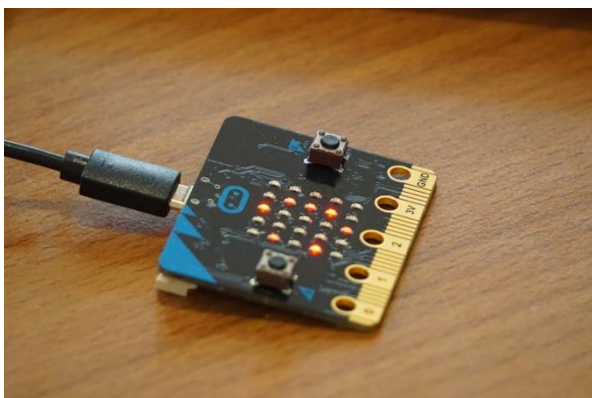
『Society3.0』工業社会へと変貌しました。米国では ARPANET と呼ばれるネットワークが開発され、それがやがてインターネットとなり『Society4.0』へ突入します。そして 2021 年。現在は『Society5.0』の入口に立っている、もしくは入口から少し入ったところにいるとされています。Society5.0 は仮想空間と現実空間を高度に融合させた世界。全ての人とモノがインターネットを介してつながり、これまでにない新しい価値観が生まれる時代です。Society4.0 はインターネットで検索をする時代。Society5.0 は「インターネットから新しい価値を提供される時代」と表現するとわかりやすいかもしれません。レントゲン撮影した瞬間に病気が診断され、あなたの SNS をもとに、あなたのライフスタイルに合った治療方法を AI が分析し、自動運転で帰る車の中であなたのスマホから提案される。診断を聞くあなたの脈拍をスマートウォッチが計測し、数値に連動するように車のエンジン出力とタイヤ周りのサスペンションが調整され、ゆったりと包み込むような走りになり、あなたの緊張を和らげてくれる。そんな時代がやってくるのかもしれない。

インターネットからの提案を受け入れるか否か。その選択は個人の価値観に委ねられますが、この選択を受けられる人、受けられない人の格差が生まれてはいけません。私は、この選択の機会を平等に享受できるようにすることが Society5.0 時代の福祉の役目なのだと思います。国連が掲げる SDGs の基本理念は「誰一人取り残さない社会の実現」です。誰もが Society5.0 時代の科学技術の恩恵を受け、今まで以上に自分の暮らしに幸福感や満足感を得ることができる時代になってほしいと思います。

「誰もが」その恩恵を受けるには、やはり作り手側に福祉への想いが必要となるでしょう。技術開発を福祉の側面から議論できるかどうかです。本校は鳥取県社会福祉協議会より「ともに生きる福祉学習推進事業」の指定校として指定され、平成 30 年度から事業を進めています。本事業の 1 つでもある福祉とプログラミング教育についてご紹介します。

本校は鳥取県立盲学校、鳥取県立聾学校に近く、開校当初から様々な交流をさせていただいております。その流れを汲みつつ、「ともに生きる福祉学習推進事業」では盲学校、聾学校にあると便利な装置をプログラミングで実現し提案することに挑戦しています。

『micro:bit』という縦 4cm 横 5cm の小さな電子デバイスを使って便利な装置を作ります。小さな見た目とは裏腹に、micro:bit はとても優秀な装置です。プログラムして動かすと光ったり、音を出したり、計算したり、加速度や傾きを測ったりすることもできます。本校の生徒たちは盲学校、聾学校へ出向き、校舎内を見学し、先生たちから話を聞きながら、盲学校、聾学校の課題を自分たちで発見し、それを乗り越えるアイデアを micro:bit で表現します。衝突しそうになるとブザー音でお知らせしてくれるネックレス。「指スマ」という子どもたちにお馴染みの手遊びを掛け声なくても遊べるようにした玩具。など、様々な提案をしてくれました。普段見落としがちな視点、考えもしなかった視点、この事業をきっかけに生徒たちに新しい視点を与えていただいたことに感謝しています。この視点、考えこそが society5.0 時代に必要な福祉の力なのではないでしょうか。



『micro:bit』 本体



チームで共同開発

日本大学の末富芳教授は雑誌「教職研修 2021年8月号」の『学校が「福祉的な役割」を果たすためのハードルは』という対談記事の中で「依存できる先を多くすることが、福祉の理論の基本であり、大事なことなのです。」と語っています。一方、ご自身が脳性麻痺という障がいのある東京大学の熊谷晋一郎准教授は全国大学生協連のインタビューに対し「依存先を増やしていくことこそが自立なのです。」と語っています。勝手ながら、お二人の話を私なりに解釈すると、「福祉とは全ての人が自立を目指すために社会全体で人々を支えること」と考えられます。誰もが自立を目指せるように科学技術だけでなく全ての分野が融合し後押しをする。子どもたちが将来どんな業界に身を置くとしても、福祉の心を忘れず、人類全体が自立した世の中を目指せるように社会に貢献する、そんな大人になってほしいと願っています。